



わたしたちのまち

(時間)
やくぶん
約90分

1 学習のねらい

- ・街角マップを使って、参加者自らの気づきを大切に、人に優しいところや気になるところを見つけ、よりよい地域づくりについて考える。
- ・社会における不公平や不公正に気づく活動を通して、参加者自ら他人の立場や心情を感知するための想像力や感受性をはぐくむ。

2 事前準備

- ・参加者：4～5人のグループをつくる
- ・準備物：ワークシート（4種類）、拡大マップセット（貸出しOK）、筆記用具

3 進め方

- (1) ねらいや進め方、注意事項などを簡潔に説明し、自己紹介をする。
- (2) 「街角マップ」を見て、グループで人に優しいところや気になるところを出し合う。←アイデア P4
 - ①グループで交流する。
 - ②グループで出た意見を全体に発表する。
- (3) 「いくつ見つけましたか？人に優しい素敵なおとこや気になるところ」を説明する。
- (4) 「笑顔が増える社会に」から、社会の様々な人の立場になったつもりで考える。←アイデア P5
 - ①街角マップの10人の中から一人を選び、子ども時代や現在を想像する。
 - ②質問にあわせて、挙手とチェックをする。
 - ③グループで交流する。
- (5) 「わたしのまちについて考えてみましょう」から、わたしにできることを考える。
 - ①個人で考えたあと、グループ内で交流する。
 - ②話し合った内容を全体に発表する。
 - ③わたしにできることは何かを考える。
- (6) まとめ
 - ・ファシリテーターの感想と思いを語る。

4 進行にあたっての留意点

- ・「街角マップ」は、グループ用の拡大マップを使ってもよい。ファシリテーターも拡大マップを前に色分けしながら解説を加えて確認していくとわかりやすい。
- ・「街角マップ」は話し合いの材料である。内容をすべてファシリテーターが説明する必要はなく、あくまで参加者の気づきや想像を大切にしたい。
- ・「笑顔が増える社会に」で、10人を特定していることに対して違和感を抱く参加者がいる場合は、マップの中から自由に人物を選んで考えてもらえばよい。
- ・「わたしのまちについて考えてみましょう」は、簡単な投げかけでとどめ、その後の区や自治会の取組に委ねていくこともできる。地区別懇談会を契機として「住みよいまちづくり」へとつなげることが大切である。